

平成22年 6月 1日現在

研究種目：若手研究（スタートアップ）

研究期間：2008～2009

課題番号：20830006

研究課題名（和文） インドネシアの伝統音楽ガムランの伝承と学校教育－教員養成における教材開発を中心に

研究課題名（英文） Transmission and school education of *gamelan* as the traditional music of Indonesia: chiefly aiming for the development of teaching materials in a teacher-training course

研究代表者

川口 明子 (KAWAGUCHI AKIKO)

岩手大学・教育学部・教授

研究者番号：50466512

研究成果の概要（和文）：インドネシアの西ジャワのガムラン・ドゥグンの楽器を、日本の大学としては初めて岩手大学に導入し、教員養成課程における様々な授業での体験実習を行った。またガムランの演奏グループ（Paraguna）を招聘してレクチャー・コンサートを学外にも公開で行い、広く啓蒙につとめると同時に、ガムランの楽器紹介 DVD や解説の教材も作成した。こうした指導法ならびに教材開発の成果は、学校教育におけるアジアの音楽文化の指導にも、大いに寄与するものである。

研究成果の概要（英文）：Among the universities in Japan Iwate University was the first to bring the *gamelan degung* instruments of West Java, Indonesia in a teacher-training course, and many practical classes have been given since.

A lecture concert by the *gamelan* group "Paraguna" was held open to the public, which enabled to make the *gamelan* music well-known. A DVD and texts that introduce the gamelan music have also been developed as teaching materials, which will certainly contribute to teaching the Asian musical culture in the school education.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	1,370,000	411,000	1,781,000
2009年度	1,200,000	360,000	1,560,000
年度			
年度			
年度			
総計	2,570,000	771,000	3,341,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学 教科教育学

キーワード：インドネシア、ガムラン、伝統音楽、伝承（口頭伝承）、音楽文化、学校教育、教員養成、教材開発

1. 研究開始当初の背景

2008年改訂の新学習指導要領においては、今まで以上に「伝統や文化の尊重」が打ち出されている。音楽科教育においても、「伝統文化」の捉え方を含め、「我が国の伝統音楽」や世界の「諸外国の音楽」についてのこれまでの指導法を検証する時期にさしかかっている。しかし、学校教育や教員養成の現場においては、日本やアジアの「音楽文化」を教材化するための実践的な研究や教材開発は、まだまだ試行錯誤の段階に留まっているのが現状である。

2. 研究の目的

現在の音楽科教育においては、世界の音楽の中でも、我が国の近隣地域であるアジアの諸民族の音楽文化を取り上げることが、特に奨励されている。そこで、本課題研究では、アジアの伝統音楽の中から、代表例としてインドネシアのガムランを取り上げ、現地での伝承および学習方法に基づき、日本の学校教育にガムランを導入する上で重要と思われる視点を提示し、教員養成における教材開発を行うことを目的とする。

具体的には、以下の4点を研究の指針として、設定した。

- ① 口頭伝承を主とするインドネシアでの伝承に基づき、日本でガムラン学習の方法論を探求する。
- ② 学校教育にガムランを導入する意義を明らかにし、教員養成におけるガムラン体験実習のカリキュラム開発を行う。
- ③ 共同体の中で合奏音楽として発達したガムランの文化的・社会的コンテクストを重視し、学校および地域社会の中でのガムランの活用法を開発し、実践的な研究を行う。
- ④ 小中高の教員や教員養成課程の学生、および一般の愛好者が活用できる「ガムラン入門」のテキスト等の教材を作成することで、研究のまとめを行う。

3. 研究の方法

(1) 音楽教育におけるインドネシアの伝統音楽の教材化に関する文献・資料収集を行い、先行研究を検証する。

(2) 日本の大学や民間の演奏団体におけるガムランの活動についてフィールドワークを行い、現状を分析する。

(3) インドネシアでのガムラン楽器制作と伝承・学習法についてのフィールドワークを行い、西ジャワのガムラン・ドゥグンの楽器セットを岩手大学に導入する。

ガムランには大別して中部ジャワ・スンダ(西ジャワ)・バリの3地方様式があり、楽器も音楽様式も異なるが、日本の大学においては中部ジャワとバリ様式のガムランは既に導入されているが、スンダ様式のものはまだである。その意味で、スンダ様式のガムラン・ドゥグンを導入することは、学術的にも日本における初めての事例として意味があると考えられるためである。

(4) 教員養成課程において、ガムランの楽器を用いた体験実習を試行し、カリキュラム案を作成する。その際、演奏だけではなく、衣装の着付け等も含んだ「音楽文化」の学習として、位置づける。

(5) 専門家と連携したレクチャー・コンサートとワークショップを実施し、その成果を検証する。

(6) ガムランの教材開発：ガムラン入門のテキスト等を作成する。

4. 研究成果

(1) 日本のガムラン演奏団体との連携

日本におけるガムランの活動についてのフィールドワークを行い、特に2008年に設立されたNPO法人日本ガムラン音楽振興会の協力を得て、事例研究を行った。小学校でのジャワ・ガムランの鑑賞教室を参観し、それを元に2009年1月に岩手大学教育学部附属小学校で、木琴等の代用楽器によるガムランの授業を試行し、教材開発を行った。

代用楽器によるガムランの体験授業の方法論は、今後授業改善を加え、発表の予定である。

(2) インドネシアでのフィールドワーク

2009年1月と8月にインドネシアでフィールドワークを行い、ガムランの指導法や楽器制作およびメンテナンスの方法を学んだだけでなく、国立芸術大学バンドン校の伝統音楽科の教員とも意見交流を行った。特に、ガムランの指導法について、伝統的な奏者による口頭伝承と学校での楽譜を用いた指導法の是非について議論し、その分析・考察の成果を学会誌に発表した。

インドネシアのガムランにおいても、「学

校化」が進むにつれ、伝統音楽の伝承法や学習法にも変化が生じており、口頭伝承ならではの意義や、「身体で学ぶ」身体性の重要性について再認識すべきことを提案した。

(3) 楽器の購入と授業での体験実習

日本の大学において初めてスンダ（西ジャワ）のガムラン・ドゥグンを導入し、教員養成課程における様々な授業（音楽科教育法、音楽科教育学ゼミ、総合演習）で、体験実習を試行した。その結果、以下のような意義が実証された。

- ① 東南アジア特有のゴング文化の代表例としてのガムランの楽器の特徴や魅力を学習できる。
- ② ドレミとは異なる独特の音律や多層なリズムからなる音楽の仕組みを体感しつつ学ぶことで、バイミュージカルリティに通じる新たな音楽性を体得できる。
- ③ 楽譜に頼らない口頭伝承を基本とするので、誰にでも入りやすく、身体で音楽を学べる。
- ④ 全員が異なる楽器やリズムを担当するアンサンブル音楽の共同作業を通じて、音楽によるコミュニケーション力を養うことができる。
- ⑤ 文化や生活と結びついた音楽のあり方の学習を通し、異文化・多文化理解への素養を身につけることができる。

上記の5項目の中でも、特に④のコミュニケーション力と、⑤の音楽文化の尊重は、新学習指導要領でも新しく導入された重点項目であり、その意味でも、ガムランは、これからの音楽教育へ新たな道を切り開く優れた教材として、高く評価できる。

(4) 専門家によるレクチャー・コンサートと講習会

写真1：ガムラン・ドゥグン



(演奏：パラグナ・グループ 撮影：©千田真弓)

① レクチャー・コンサート

東京より日本で唯一の西ジャワ音楽の演奏団体であるパラグナ・グループを招聘し、2009年11月20日にレクチャー・コンサート「西ジャワの伝統音楽のタベ」を岩手大学北桐ホールにて、学生はじめ学内の教職員や、さらには岩手県の音楽教員や広く地域にも一般公開する形で行い、申込みを締め切るほどの参加（約200人）があった。

教員養成のための学習として大きな効果を挙げただけでなく、鑑賞教室や公開講座等への要望も寄せられ、今後は生涯教育や地域貢献にも繋がる地域社会の中での活用にも、幅を広げる予定である。

② 講習会

また、翌日の11月21日に音楽科教育の教員養成課程の授業の一環として、専門家によるガムランの講習会を行った。西洋の様式の音楽とは異なる独特の楽器や音楽構造の特徴を体感し、異文化として「違い」を認識し、その良さを認め合う深いレベルの学習効果が見られた。さらに、教員養成の一環としても、教師志望の学生達がアジアの伝統音楽の教材化へのアプローチを身につける上で、大きな成果が得られた。

(5) ガムランの教材開発（テキスト・DVDの作成）

大学院の授業を活用して、「ガムランの楽器解説」のテキストやガムランの楽器図、さらに「ガムラン・ドゥグン楽器紹介」のDVDを作成し、上記のレクチャー・コンサートや教員研修、学会でのワークショップで使用し、教材としての内容の検証も行った。表現教材としてのガムランのDVDは、まだほとんど市販されていないので、今後は、これらの教材をさらにバージョン・アップして、最終的には一般向けに市販できる教材開発をさらに進めることが、今後の課題である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

- ① 川口明子、インドネシアの音楽文化ーゴング文化の神髄ガムランを中心に、音楽鑑賞教育、財団法人音楽鑑賞教育振興会、査読無（依頼原稿）、502号、2010、1月号、pp. 4-7
- ② 川口明子、口頭伝承と身体性ースンダ（西ジャワ）の伝統音楽の学習を事例として、音楽教育実践ジャーナル、日本音楽教育学会学会誌、査読有、6巻、2009、pp. 28-38

〔学会発表〕(計2件)

- ① 川口明子、ワークショップ スンダのガムラン・ドゥグン学生による演奏&ガムランの楽器演奏体験、日本音楽教育学会東北地区例会、2010.2.13、岩手大学(岩手県)
- ② 川口明子、スンダ(西ジャワ)のガムラン・ドゥグン gamelan degung ワークショップ、日本音楽教育実践学会東北支部例会、2009.3.14、岩手大学(岩手県)

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

- 出願状況(計0件)
- 取得状況(計0件)

〔その他〕

小学校での出前授業の実施

- ①岩手大学教育学部附属小学校にて、木琴・鉄琴等の代用楽器によるガムランの実験授業を行い、指導法や教材の開発を行った。2009.1.26

レクチャー・コンサート

- ②西ジャワの伝統音楽のタベ〜青銅の煌めき／ガムラン・ドゥグン&歌・箏・笛の楽／トゥンバン・スンダ
主催：岩手大学教育学部音楽教育科
共催：岩手大学アートフォーラム
後援：岩手県音楽教育研究会
岩手県高等学校教育研究会音楽部会
司会：川口明子
講師：森重行敏(東京芸術大学他非常勤講師)、村上圭子(NPO 法人日本ガムラン音楽振興会代表)
演奏：パラグナ・グループ&岩手大学ガムラン・ドゥグン・アンサンブル
日時：2009.11.20
場所：岩手大学・北桐ホール

ホームページ等

- ③岩手大学教育学部音楽科
<http://www.music.iwate-u.ac.jp/>
- ④NPO 法人日本ガムラン音楽振興会ーJガムラン倶楽部
<http://www.j-gamelan.com/club.html>

新聞掲載

- ⑤ 西ジャワの音楽を、盛岡タイムス、2009.10.6、p.10

6. 研究組織

(1) 研究代表者

川口 明子 (KAWAGUCHI AKIKO)
岩手大学・教育学部・教授
研究者番号：50466512

※研究協力者

村上 圭子 (MURAKAMI KEIKO)
NPO 法人日本ガムラン音楽振興会代表

森重 行敏 (MORISHIGE YUKITOSHI)
東京芸術大学・非常勤講師、洗足学園音楽大学現代邦楽研究所・講師

パラグナ・グループ (PARAGUNA GROUP)
西ジャワの伝統音楽の演奏団体